

ナガフトヒゲナガソウムシの記録 松尾 隆人

ナガフトヒゲナガソウムシ *Xylinada striatifron* Jordan は、的場(1992)によると、1979年に和歌山県から報告された後、新潟県、長野県、岐阜県、福井県、京都府、大阪府、兵庫県、滋賀県で得られているという。その後、三重県(大塚,1997)、愛知県、静岡県(栗原,1999)から採集記録が報告されている。また、兵庫県では養父郡関宮町、美養郡吉川町(高橋,1986)、西脇市(佐藤,1988)、神崎郡大河内町(佐藤,1993)、美方郡村岡町(永幡,1994)からの記録がある。なお、筆者自身も県内では養父郡関宮町、多可郡中町にて採集している。

いずれも偶然に得られたというような採集例がほとんどで、一般的には得難く稀な種とされていた。しかし、佐藤(1993)は兵庫県西脇市において、また野平(1999)は岐阜県において、本種の多数採集例を報告しているが、筆者もまた同様の機会に恵まれたので、その概要を報告する。

兵庫県小野市にてオオムツボシタマムシが得られたとの知人からの情報で、2001年7月5日、来住町岩倉の現地を訪れた。目的のクヌギの伐採木からは何も得られなかったが、林内のコナラの倒木にナガフトヒゲナガソウムシが多数群がっているのを発見した。樹皮の裂け目に身を潜めているもの、交尾中のもの、忙しなく追いまわっているものなど、22頭を採集した。さらに、7月8日に23頭、翌9日に16頭が得られた。気配には非常に敏感で、すぐに落下し擬死行動をとるため、落ち葉の堆積した林床での再発見は容易ではない。また、メスが樹皮を齧っているところも観察しているが、後食なのか産卵の目的なのか、昼休みの限られた時間内では確認には至らなかった。

このコナラは1メートル程の高さで三つ又となっていた太枝が切り落とされ、切り株からは沢山のひこばえが出ていた。太枝はそれぞれが直径30センチ程で早春に切られたようである。本種が得られたのはこのうち大部分が地面に接していない1本の倒木だけで、地面に横たわっていた他の2本からはなぜか1頭も見いだせなかった。また、倒木の上面には少なく、ほとんどの個体は側面や下面から得た。1本の倒木に集中していたのは、温度や湿度、明るさなどの環境や倒木の状態など、微妙な要因によるものかも知れない。本種があまり目に付かなかったのもそのためだろうか。

[採集記録]

1♂1♀, 兵庫県養父郡関宮町出合(チップ工場貯木場), 14.VII.1991; 1♀, 兵庫県多可郡中町牧野, 21.

VI.1999(自宅灯火); 9♂13♀, 兵庫県小野市来住町岩倉, 5.VII.2001; 12♂11♀, 同地, 7.VII.2001; 9♂7♀, 同地, 8.VII.2001

<参考文献>

- 高橋寿郎(1986) ナガフトヒゲナガソウムシを美養郡吉川町にて採集, IRATSUME 10: 46-47
 佐藤邦夫(1988) 西脇市でナガフトヒゲナガソウムシを採集, IRATSUME 12: 84-85
 的場 績(1992) 滋賀県におけるナガフトヒゲナガソウムシの記録, 月刊むし253: 39
 佐藤邦夫(1993) ナガフトヒゲナガソウムシについて, IRATSUME 17: 79-80
 永幡嘉之(1994) 但馬における甲虫数種の採集記録, IRATSUME 18: 56-57
 大塚 篤(1997) ナガフトヒゲナガソウムシの成虫の食性について, 月刊むし313: 38
 栗原 隆(1999) ナガフトヒゲナガソウムシを静岡県で採集, 月刊むし341: 46
 野平照雄(1999) 岐阜県におけるナガフトヒゲナガソウムシの記録, 月刊むし346: 14

(MATSUO TAKAHITO 多可郡中町牧野748)

クロカタビロオサムシ, ルリヒラタムシの採集例 山本 勝也

兵庫県の貴重な自然—兵庫県版レッドデータブック—to 公表されている。採集例が少ないと思われる甲虫類の中で、筆者が採集保管している2種の採集例をここに書き留める。

クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowiczii* (Morawitz)

神戸市須磨区鉄拐山, 28.VI.1995, 1ex.
コナラの幹に静止していたものを採集した。

ルリヒラタムシ *Cucujus mniszewski* Grouvelle
兵庫県養父郡大屋町氷ノ山坂の谷林道, 19.V.1993, 1ex. 飛翔中の個体を採集した。

<参考文献>

桃井節也 他(1995) 兵庫県の貴重な自然—兵庫県版レッドデータブック—

(YAMAMOTO KATSUYA

神戸市須磨区須磨寺町2丁目1-1)